

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム清和		
所在地	岡山県加賀郡吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの前には花壇、畑があり花や野菜を育てています。収穫した物は一緒に調理し食卓に並びます。 ・1ヶ月～1ヶ月半のペースでご希望の場所へ出掛け(生家・親戚宅・友人宅・墓参り等)お好きな物を食べてくる個別ケアに力を入れています。 ・毎日入浴できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>入口の花壇には季節の花がとりどりに咲き、事業所内は明るく清掃が行き届き、毎日の入浴で利用者全員の清潔が保たれています。手押車でのごみ出し、家庭菜園作り、利用者の力を活かした取り組みなど工夫されています。個別の外出や友人の来所など馴染みの人や場との関係を継続し、ボランティアや各種行事で地域とのつながりを大切にしながら、管理者を中心にスタッフ全員で利用者に寄り添い、資格取得など向上心をもって前向きに取り組んでいます。穏やかな表情や家族アンケートからも、みんなの「わが家」で安心して生活できている様子がうかがえます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は1棟開設時のスタッフが思いを込めて作成している。その理念は現在も引き継いでおり2棟開設時や新規採用職員にも配布している。	豊かな自然の中で四季を感じながら、家族や地域と交流し、ふれあい、安心・安全にその人らしい生活が送れるようにとの思いをこめて、みんなの我が家の実現に向けて、日々努めています。	事業所独自の理念をもとに、実践に向けた具体的な目標を年度ごとに定めて取り組まれてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域ボランティアによる昼食作りや絵手紙教室を開催している。また月1回の地元のいきいきサロンへ参加されている方もおられる。	保育園・小学校との交流、体験学習の受け入れ、祭り・各種行事への参加や招待、草取りや絵手紙のボランティア受け入れなど積極的に働きかけ、機会を捉えた取り組みがされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターの取り組みに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に御家族様、介護保険担当者、民生委員、ご利用者様方へ出席して頂き活動報告や事故報告等すると共に地域の情報も頂いている。	2ヶ月に一度、行政・民生委員・家族(持ち回りで順番に)・介護福祉施設長などの参加を得て開催し、状況報告をすると共に、落雷時の対応や熱中症について話を聞くなど有効に活用し、サービス向上に役立てています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの開催するネットワーク会議やサービス事業連絡会などに参加し地域の事業所と情報交換を行っている。	定期報告、運営推進会議での話し合い、包括地域ネットワーク会議への参加の他、困難事例への対応を相談するなど日頃から協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での勉強会を行っている。また夜間の防犯目的以外の施錠はしておらず、活動の場に制限を加えることはしていない。	マニュアルを作成しており、勉強会で具体的な行為について話し合い、特に言葉掛けなど注意し合って、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については入居前に必ず身元引受人同伴で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には持ち回りで御家族様に参加をお願いしている。その他にも面会時などは職員と御家族様の会話も大切に話しやすい環境を心掛けている。	面会時や月1回の預り金の時など家族とのコミュニケーションを大切にされた対話に努め、また運営推進会議で話し合い、意見や要望を聞いてそれらを反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議で意思の疎通を図っている。屈託なく意見を交わせる職場環境であり、意見や提案は活発にある。	職員間の雰囲気は良好で、毎月のミーティングや日頃の業務の中で気軽に意見や提案を述べることができ、管理者は施設長に報告しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備は出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修、外部への研修など全職員年間予定表を作成し実施している。また復命発表を通して他職員にも伝えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他事業者とはネットワーク会議等を通じて情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で得た情報を元にサービスを開始し、様子を見ながら1ヶ月を目処にケアプラン作成。その後もホームに慣れるまでこまめにモニタリングとケアプランの見直しを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接ではご家族さまにも同席して頂きここに至る経緯や困っていることなどをお聞きしケアプランに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや要望など拝聴し、何が本当に必要であるかを検討し他のサービスの選択も出来るよう情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な場面で家事を手伝って頂いている。少数の職員だけでは家事をこなすのは困難であり、まさしく暮らしを共にする関係にあるといえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には毎月お便りで近況をお知らせしている。また少なくとも月に一度は来訪して頂きその都度必要な情報を交換するようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出日を利用し、親戚や旧友のもとや思い出の場所へ同行し過去と現在の繋がりが、また地域との繋がりが途切れないよう支援している。	散髪、通院、墓参り、友人宅・親戚への訪問など、個別外出でそれぞれの意向を反映すると共に、友人・知人の訪問を受け入れ、自由に電話で話せるなど馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小さな社会が出来ている。家事や日中活動を通して常に他者との関わりが持てるように支援している。またそれぞれ家事に役割があり支え合っていることを実感してもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特にしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを大切に希望や意向が生活に反映できるよう努めている。	利用者同士の会話や対話・観察・記録、家族からの聞き取りなどから情報をキャッチし、スタッフ間で共有しながら一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にお聞きした情報に加え、日常の何気ない会話から得た新たな情報や発見も記録し、利用者様の生活歴、人間像を理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の言動や表情、有する力を活用出来ているかなど些細な変化にも注意し職員間で申し送りを重ね現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミニカンファレンスで情報を集め、それを元に本人と話し合いケアに繋げている。必要なケアは介護計画作成に反映させ御家族様にも承諾をいただいている。	定期的にあるいは必要に応じてモニタリングを行い、本人・家族の意向を反映しながら、ケア会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や気づき、実践した事柄、情報など個別経過記録に時系列で記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所への訪問、個別外出の機会の確保、または自宅への付き添いなど個々のニーズに対応できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの地域サロンに参加ご希望の利用者様には先方との連絡調整や送迎など行い暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は職員が付き添い、現状や経過、御家族様のご希望など必要な情報を伝え適切な医療を受けられるよう支援している。またその旨を御家族様にもお知らせしている。	協力病院へ定期的な通院介助をしている。緊急時や急変時などの電話対応や入院の受け入れも可能で、家族の協力も得ながら適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はなく今後の課題としてとらえている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院は入院設備があり、利用者様がたの個々の状況はしっかりと把握して頂いている為スムーズな対応がとられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師の配置が無い為、ターミナルケアは行っていない。	契約時や状態変化により、医療行為の必要性も含め、本人・家族の意向を確認し、事業所で対応できる範囲について話し合っています。	設備や医療との連携など多くの課題もありますが、話し合いを進め実践に繋げていかれる事を期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。また勉強会や施設内研修等を計画し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーや火災報知器など設備の定期点検や定期的な避難訓練の計画、実施など行っている。	年2回(1回は夜間想定)の訓練を実施しています。地元消防団にも声をかけ協力を要請しています。落雷による停電を経験し、運営推進会議で話し合ったとの事です。	非常時に備え防災グッズ(非常食・名札など)の整備も合わせた各種の訓練にも取り組まれてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレへの入室の際はノックや声掛けをし了解を得てから入室している。また、利用者様の個性を理解し本人様の気持ちを損なう言葉掛けをしないよう努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、きちんと挨拶し、落ち着いた丁寧な対応を心がけています。言葉掛けには特に注意し、接遇研修にも取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心掛けており、個人的な事柄は本人様に相談し了承を得て次のステップへ移行するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(ご自分の意思で)スケジュール通り生活される方、横になって過ごされる方がおられ、職員はそれぞれのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は近隣の散髪屋に希望時に送迎、付き添いの支援をしている。またお化粧品の購入の代行や、買い物の付き添いなども行い、出来る環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米洗いやおかずの盛り付け、食卓拭き、お茶の用意など食事に関わることを個々の有する能力に応じて手伝って頂いており、食事が出来上がる頃には皆様察知し自ら誘い合い食卓に着いて待ってくださっている。	テーブルを拭いたり、配膳や後片付けなど個々の能力に応じて一緒に作業しています。全員揃ってテーブルを囲み、食前・食後の挨拶をして一緒にいただく食事は和気あいあいと楽しいものとなっているようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はチェック表で把握し、食事形態も一口大や刻み、またはとろみをつけたりと、嚥下、咀嚼状態を見ながら提供している。また元々の習慣からの食事量や嗜好も考慮し調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、介助や声掛けを行っている。必要な方は定期的な歯科受診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。	排泄票をチェックしてさりげなく声をかけ、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けて支援しています。毎日風呂を沸かしており、失禁等清潔が保てるように配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と摂取量のチェック、毎日の体操などにより予防に努めている。またその為に服薬されている方については更に細やかな観察を心掛け時にマッサージを行うなどしながら滞りなく排泄出来るよう予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	年間を通じて毎日入浴できる環境を整えている。体調により入浴出来ない方や気が向かない方は更衣・全身清拭などで対応している。	365日入浴が可能で、ほぼ全員毎日入浴しており、よく眠れると評判がいいようです。脱衣・入浴・着衣までを一人のスタッフが担当するなどプライバシーに配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息のパターンも個々に定着しており、それぞれのペースで休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はそれぞれにファイルし副作用等についても確認ができるようにしている。また経過記録をもとに受診付き添いの際は症状の変化や現状をこまめにドクターに報告し指示を仰ぎ薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加や生け花や工作、塗り絵、写経等の材料の提供、野菜の栽培、外出支援など気分転換になることを提供できるよう日々努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別外出日を利用して血縁者や友人宅、または自宅へ同行している。	家庭菜園での作業、手押し車で坂道を歩いて毎日ゴミ出し、買物など日常的に戸外に出かけています。また各種行事での外出、個別に友人宅・墓参・生家・思い出の場所など希望に添いながら家族の協力も得てよく支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方については、ご自分で(受診に係る費用などを除いて)管理されている。金額等御家族様と本人様にお任せしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話でお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々でホールや居室を飾ったり季節にあった創作活動をし、それを飾るなど温かみのある空間作りに努めている。また手作りの家具などを配置して利用者にとっても思い入れの出来る空間作りをしている。	玄関を入ると利用者の下駄箱や帽子置き場があります。木の香りのするリビングには、ゆったりしたソファや可動式のたたみ、テーブル、応接セットなどが置かれ、季節ごとの作品が展示してあり、清潔で明るく居心地よく過ごせる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座れるソファや畳スペース、個々に決まったテーブル席など共用スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れた家具を持ち込んで頂いておりご自分の作品や写真など思い思いの物で部屋を飾っておられる。また、御主人の位牌や写真を持ち込まれている方には毎日お供え用のごはんを用意してお供えをしている。	自宅から使い慣れたものや家族の写真、思い出の品(位牌なども)を持ち込み。思い思いに配置し居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全て段差のないバリアフリー建築になっており車椅子であっても生活できるよう設計されている。またそれぞれの部屋の前に手作りの表札を掛けたりトイレには使用中かどうか分かるように札を掛けている。		